

国際協力



2016 新春号

No.46 2016.1.1

JICA駒ヶ根



特集・青年海外協力隊事業50周年記念… 1・2	協力隊員現地レポート …………… 5
イベント・レポート …………… 3・4	帰国ボランティア報告 …………… 5
中小企業海外展開支援 …………… 4	インフォメーション …………… 6
草の根技術協力事業 …………… 4	長野県出身新ボランティア …………… 6
JICA長野デスクの窓から …………… 5	新スタッフ紹介 …………… 6

特集 青年海外協力隊事業50周年記念

青年海外協力隊発足50周年記念式典 感謝～そして未来へ

11月17日(火) パシフィコ横浜 国立大ホールにて開催

青年海外協力隊発足50周年を記念した式典が、全国から、元協力隊員や支援してくださっている方々約5,000人が横浜に集まり、盛大に行われました。



「次世代からのメッセージ」を述べる山本一葉さん。隣りはもう一人の代表、高橋海輝くん（東京都立立川国際中等教育学校4年）



登壇者らに拍手を贈られる天皇皇后両陛下

第一部では天皇皇后両陛下ご臨席のもと、次世代からのメッセージとして、2人の高校生が代表で言葉を述べました。そのうちの1人はなんと駒ヶ根市在住の山本一葉さん（伊那北高校1年）。山本さんは中学生の時に駒ヶ根市主催のネパール研修旅行に参加し、現地でお会いした元協力隊員の女性が、現地の人たちと寄り添い、現地の人たちの笑顔

作り出している様子に感銘を受けたことを昨年JICAの国際協力量中学生・高校生エッセイコンテストで作文にし、審査員特別賞を受けたことがきっかけとなり、今回の大役に抜擢されました。



協力隊の隊歌「若い力の歌」を著名人と登壇者全員で大合唱。高橋尚子さん、真戸原直人さんらから温かいメッセージもいただきました。

第二部では、帰国隊員とスポーツ庁長官の鈴木大地氏によるパネルトークや、協力隊50周年を記念して作られた映画「クロスロード」の監督すずきじゅんいち氏の出演に続いて、アンダーグラフ真戸原直人さん作詞・作曲の50周年イメージソング「ひとりひとり」を真戸原さんや庄野真代さん、高橋尚子さんら著名人らが唄いました。そして最後は協力隊歌「若い力の歌」を第一部・第二部の登壇者と参加者全員で合唱し、閉幕しました。

長野県からも協力隊を支援してくれている多くの皆さんが式典にかけつけてくれました。訓練中の協力隊候補生も参加。次の半世紀に向けて、新たな青年協力隊事業の始まりとなる記念すべき日となりました。

青年海外協力隊50周年記念セミナー「『国際×地域×若者』～世界で、日本の地域で、活躍する人～」を実施しました。

10月24日(土)駒ヶ根市の駒ヶ根高原美術館ホールにて、JICA駒ヶ根主催にて、協力隊50周年を記念したセミナーを実施しました。駒ヶ根訓練所で派遣前の訓練を受けた後、中南米の各国で協力隊員として活動し、現在、日本の各地域で防災・復興・まちづくり・地域おこしなど様々な分野で活躍している5名の協力隊OB・OGらが、中南米での活動、そして現在の日本の各地域での取り組みを紹介。後半には長野朝日放送アナウンサーの青池玲奈氏の進行にて、協力隊時代の派遣国と現在の日本の活動地での共通する部分や違い、活動していく上での心構えなどについて話し合われました。

元協力隊員の方々はもちろん、駒ヶ根市民をはじめ県内の方々を中心に75名が参加。協力隊事業の目的の一つである「協力隊経験の日本社会への還元」について、パネリストらの日本各地での活動事例、協力隊から現在の活動までの繋がりを一般の方々にもご理解いただく良い機会となりました。



JICA駒ヶ根で世界を学ぶ一日 「信州グローバルセミナー2015」を開催しました。



基調講演 星野昌子さん

今年で5回目を迎えた信州グローバルセミナー(12月20日)。145名の参加者を迎え、青年海外協力隊事業50周年を記念し、基調講演は初代協力隊員(ラオス派遣)の星野昌子さん。50年前の派遣前訓練や当時の驚くようなお話、当時のラオスの家族の絆、隊員経験を活かして帰国後に日本の国際協力の分野を切り拓かれてきた歴史、旭日小綬賞を受賞された際のエピソードなど、大変興味深く、あっという間の1時間でした。「これから海外へ行こうと思っている方、今です! 行く予定のない方も、日

本にいても地域のためにできることはたくさんあります。」と若い世代への力強いメッセージをいただきました。

午前は6つ、午後は7つのセッションから参加者が好きなものを選んで聴講。今年では50周年を記念して、隊員の経験を活かして国際協力や地域活性化のために活躍している方々のお話も多く、みなさん、信州と世界のつながりを感じることができたのではないのでしょうか。来年もご期待ください!



クロージングセッションで学びを共有する参加者の皆さん

シリーズ 世界から、地域で活躍! 信州で活躍する元協力隊員に聞きました。

今回は県外出身、
移住者の同期お二人!

伊那市在住

おがさわら あやこ
小笠原 彩子 さん(旧姓:中村)

平成21年度4次隊
派遣国:ブルキナファソ
職種:行政サービス
出身:東京都



Q1:協力隊員となったきっかけは?

以前仕事でアルジェリアに長期滞在した際、治安がとても悪く、必ず外出はボディガードと一緒にかごの鳥の生活でした。もっと現地の人たちと触れ合いたい、役に立つ実感を得たい!と思い協力隊に応募しました。

Q2:ブルキナファソでの活動や生活はいかがでしたか?

当時ブルキナファソ政府は戸籍の電子化を目指しており、その前段階としての文書管理の仕事をしました。優しい人たちに囲まれて、現地生活にどっぷりつかっていました。アフリカに行くことと価値観が変わります。特に家族の大切さを学びました。貧しくても「一緒に食べようよ!」「これ着なよ!」などと家族のように接してくれる人々ばかり。滞在中、東日本大震災が起こり、道で会った知らないセネガル人に「早く家族に電話しろ!」と心配されたりも。

Q3:協力隊の経験は今どう生きていますか?

「アフリカ式子育て」を実践中。今2歳の息子がいるのですが、子どもは自分で自分の能力をちゃんとわかっているし、命の危険が無ければ大丈夫、大家族なので誰かが見てくれている、というおらかな子育て。アフリカの子どものように夏は泥だらけになって遊んでいますが、子どもと外遊びをして、自然の中で「生きる力」をつけてほしいです。また、東京都出身ですがアフリカの経験があったからこそ、いろいろな意味で伊那市での生活もなるとなっています。



現地の同僚と

ブルキナファソではモノがないので野菜を栽培していました。今でも自分で食べられるくらいの野菜は作っています。実は協力隊に行く直前に原村の農業大学校で農業研修を受け、基本を学んだことが生きています。アフリカで感じたのは、結局人間って、医療・農業・教育が一番大事、ということ。これのどれかに関われば生きていけるって思いましたね。

Q4:これからの夢、チャレンジしたいことについて教えてください。

まずは子どもを世の中に出しても恥ずかしくない人間に育てること。せっかく協力隊の地盤のある県にいるんだし、将来は協力隊の経験を活かしてアフリカのために何かやりたいと思っています。たとえば寒天(嫁ぎ先が老舗寒天屋)をハラルフードとしてアフリカの人たちに食べてもらう、などということも考えています。

原村在住

しいだ だいすけ
飯田 大輔 さん

平成21年度4次隊
派遣国:ニジェール
/ケニア
職種:村落開発普及員
出身:静岡県



Q1:協力隊員となるまで。

大学卒業後、6年間雑誌の編集の仕事をしていました。仕事ばかりで深夜に帰宅するような生活の中、旅先の小笠原諸島で、宿のオーナーの洗剤も使わず自然環境に配慮した生活と有機農業に感銘を受け、農業に興味を持つようになりました。その後、一度外から日本を見てみたいと思い、協力隊に応募。経済重視の日本が失ってしまったものがまだ途上国には残っているかもしれないと思ったからです。



現在の飯田さん。8月に行われた大学生への出前講座の風景。

Q2:ニジェールでの活動や生活はいかがでしたか?

水や電気、食べ物も十分ではないくらいの中、時には過酷な自然を受け入れ、自然の恵みに感謝しながら家族や地域のつながりが強く助けあっている生活。一つの理想的な社会を見た気がしました。現地では主に農業の活動をしました。学校菜園をつくったり、現地で手に入る石鹸と唐辛子を使った農薬の作成と散布を広めたり。また単作物を作り続けていて土地がやせていたので、休耕帯をつくって広めたり。バイクで村をひたすらまわり、地元の人と仲良くなるように努めました。ただ、1年弱で治安が悪化し、活動の成果を見る前に派遣国がケニアへ変更となり、非常に残念でした。



家庭菜園での指導風景

Q3:協力隊の経験は今どう生きていますか?

その後、福島県の昭和村に移住した際に、アフリカで見たことができたものがまだ残っていたことに衝撃を受けました。相互扶助の精神など、何百年も受け継がれてきた村の精神性、生活様式、知恵など。今年の4月から原村で農業の研修に入り、2年後には将来花卉農家として独立する予定ですが、これからも長く受け継がれてきた村の暮らしを継いでいきたいと思っています。

Q4:これから協力隊を目指す人へのメッセージ

若い人には若い年のアイデアや行動力があり、年下ながらも感心する隊員が多かったです。年齢を重ねると知識や経験が豊富になってくるので、それはそれで一つの武器になるのでは。なので、いつ目指しても良いのではないのでしょうか。

イベント・レポート

Event Report



11/2

第2回 JICAボランティア帰国報告会

駒ヶ根訓練所にて第2回JICAボランティア帰国報告会を開催しました。報告者は帰国して間もない3名の帰国ボランティアのみなさん。

寺越寛さん(シニア海外ボランティア、派遣国:ブータン、職種:廃棄物処理)は「若い方々に是非JICAボランティアに参加してほしいです。」

上條美香さん(青年海外協力隊、派遣国:ホンジュラス、職種:助産師)は「帰国後、日本はモノや情報量が多く、日本人は整理する能力があると感じました。」

湯澤千里さん(青年海外協力隊、派遣国:サモア、職種:理科教育)は「最初の3か月は現地を客観的に観察しました。現地の人々と仲良くなった後、1年後によりやく成果ができました。」とそれぞれ発表されました。



発表者の皆さんと。左から順に、仁田所長、寺越さん、上條さん、湯澤さん、駒ヶ根協力隊を育てる会の高坂会長。

11/8

JICAボランティア留守家族連絡会



青年海外協力隊長長野県OB会の松本会長よりご挨拶

毎年1回、JICA駒ヶ根主催で派遣中のJICAボランティアご家族のために開催している留守家族連絡会。今年は松本市内の保養施設「浅間温泉 みやま荘」で開催。ご家族24名をはじめ、OB会、来賓を含め総勢51名が参加され、情報の交換、現地視察の旅体験談*、昼食懇談会、地域グループ別懇談会などが行われました。参加されたご家族からは、「現地視察の旅の体験談で現地の様子がわかり安心しました。」「たくさんの情報や意見を聞くことができて不安がなくなりました。」「今までの心配事がなくなりました。」との感想をいただきました。

※今回の現地視察の体験談は、本紙「現地隊員活動レポート」に掲載の下野理紗さん(ポリビア派遣)のご家族にお話しいただきました。

11/29

第9回 クロスカルチャーデー in Komagane

海外からゲストを招き、駒ヶ根の良さを世界に発信することを目的とした当イベントは、今回で9回目となりました。アルメニア、エジプト、フィジー、インド、ペルー、ヨルダン、セネガル、カメルーンの合計8ヶ国から11名の方が参加され、市民の皆さんと交流を深めました。有志で参加した訓練生を含め、総勢85名が一堂に介し、獅子舞とお雛子の鑑賞、焼き芋、習字体験、マユを使用したクラフト作成、餅つきや地元食材を使用した昼食会など、日本の四季を体感できるイベントを楽しみました。

イベントの最後には、参加者全員で大きな輪を作って伊那節を踊り、大感動の中、記念撮影を行いました。市民の皆様の温かさに触れ、涙を流してしまうゲストもあり、言葉の壁を越えた交流を目の当たりにした1日でした。次回は2月に開催予定です。



12/12

県知事と協力隊OBによるタウンミーティング

阿部守一長野県知事と長野県在住協力隊OB・OGによるタウンミーティングが駒ヶ根訓練所で開催されました。

テーマは『世界の中の長野県 ～協力隊事業50周年にあたり、これからの長野県と協力隊OB・JICA駒ヶ根の連携を考える～』



阿部知事をお招きして、青年海外協力隊長長野県OB会に所属するJICAボランティア経験者21名と語っていただく初めてのJICA駒ヶ根主催によるタウンミーティングでした。「青年海外協力隊の経験を長野県のためにどう活かすか?」という問いに対して、「JICAと長野県民とのつながりをもっと作るべき。」「JICAを一つのツールとしてもらえれば海外ともっとつながる。」などの意見や、途上国と長野県が抱えている共通の問題の解決に元協力隊員のノウハウを生かすことができるのではないか、などといった声が出されました。

イベント・レポート

Event Report



長野県との開発教育事業2件実施！

11/2-4

高校生「グローバルマインド育成講座」初の開催！@駒ヶ根訓練所

長野県教育委員会主催による初めての高校生の宿泊型研修を駒ヶ根訓練所にて行いました。県内の異なる高校から、1、2年生33名が参加。国際協力の理解や意識を高めるための内容で、ワークショップ、ネパール語講座、訓練期間中の訓練生と一緒に朝の集いや班活動に参加したり、訓練生へのインタビュー、そして世界の課題に取り組むための協力隊プロジェクト作成など、とても濃い2泊3日でした。中には「とても楽しくて、帰りたくない!」、「協力隊を目指したい。」と言ってくれる生徒さんも多くいました。



最終日、自分が隊員となったら何をするかをグループで発表

11/12-13

「2015年度 国際理解教育 指導者セミナー」@総合教育センター

毎回恒例の国際理解協力指導者セミナー。今回初めて長野県教育委員会に共催をいただき、長野県総合教育センター(塩尻市)にて一泊二日で実施しました。今年も講師は(特活)開発教育協会から西あい氏と星久美子氏。のべ22名が参加し、農業科、家庭科、数学、日本史等々、様々な教科の先生方が集まりました。国際理解教育の参加型学習の手法取得を目的に、国際理解ワークショップあり、ブレインストーミングあり、笑顔のあふれるアイスブレイキングあり、そして学習プログラム作成のグループワークや発表など、盛りだくさんの2日間でした。「いつもの業務と異なり、つねに脳がフル回転」「様々な気付きや発見があった」「ぜひ参加型を自分の科目の授業にも取り入れたい」と、好評でした。初日夜には懇親会もあり、国際理解教育に意欲のある先生方のネットワークが深まりました。



JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援

飯田市でのセミナー開催&各中小企業支援機関の勉強会で支援事業紹介



「中小企業海外展開支援事業セミナー in 飯田市」にて

JICAの中小企業海外展開支援事業を紹介する「中小企業海外展開支援事業紹介セミナー in 飯田市」を10月15日に八十二銀行飯田支店にて開催。セミナーでは、八十二銀行吉江飯田支店長、中小機構 関東本部の大窪課長代理、JICA中小企業支援室の小林副室長によるパネルディスカッションも実施し、南信地域の企業の皆様をはじめ29名の方々にご参加いただきました。

また12月8日には、八十二銀行駒ヶ根支店が地元企業の皆様と実施している勉強会「八十二経済研究会」にJICA本部職員がおじゃまして支援事業を紹介。地元企業の皆様にJICAの中小企業海外展開支援事業をご理解いただく良い機会をいただきました。この他にも、11月には、県内金融機関職員向け勉強会や商工会議所担当職員向けの勉強会でもJICAの事業を紹介する機会をいただきました。

JICA駒ヶ根では、今後も長野県内各地域の中小企業支援機関による勉強会に積極的に参加して参りますので、お気軽にお声掛けください。

— 草の根技術協力事業 —

「ネパール：安心、安全な出産のための母子保健改善事業」 ネパール研修員が駒ヶ根市で研修

11月16日から12月5日まで、上記研修員9名が駒ヶ根市をはじめ県内外の関連施設で研修を受けました。妊産婦や新生児に配慮された施設やケアの手法を研修し、今後ネパールでも可能な妊産婦・新生児ケアの普及について意見を交換しました。休日には駒ヶ根市内の公民館で、分館家庭部の主婦たちとネパール料理の「ダルバート」を作り、学生や市民の方とネパール母子保健向上へのアイデアを出し合うなど交流を楽しんでいました。

11月30日の研修修了式では、研修受け入れ先や市

民が見守るなか、研修修了証を実施団体である「ネパール交流市民の会」の小松原会長より受け取り、充実感に満ち溢れた表情をしていました。当事業は2015年3月から2017年3月までの期間で実施され、ネパール・ポカラ市で妊産婦の母子保健改善に貢献します。



JICA長野デスクの窓から♪

●信州国際塾@長野高専、盛況のうちに終了!

10月17・18日、長野高専文化祭「工嶺祭」にて、「2015年第2回信州国際塾・地球村へYokoso!」を行いました。長野高専国際交流同好会とJICAがコラボし、アジア料理の屋台など異文化に触れる催しを行いました。2日目の体験教室では、岡宮美樹OG(元日系社会青年ボランティア、現長野高専日本語講師)の司会進行で、日本に来て驚いたことや不思議に



思ったことなどを、留学生が発表しました。「温泉で裸になるのが恥ずかしかった。」「歯を磨きながら話をするので驚いた」など、面白い視点のお話が聞けました。ワークショップ「世界



がもし100人の村だったら」では、仮想の村で現実世界を体験しながら共生や平和の大切さを学びました。

国際交流同好会の部長、滝澤善史君(長野高専4年生)は、「留学生との交流もでき、大切な仲間も増えた。準備など大変なことも多かったが、とてもいい体験になった。」と述べていました。

信州国際塾は、来年度も学校とのコラボレーションができればと思っています。ご希望があれば、長野デスクまでご相談ください!

協力隊員
現地レポート
from ボリビア
しものりさ
下野理紗さん
平成26年度2次隊
職種:助産師
伊那市出身



看護学生とお産の経過について妊婦さんに説明しているところ。(写真左が下野さん)

マゾン地域で、青い空、赤い土、カラフルな花々が特徴的で、アセロラ、アサイーなど南国特有の果物やおいしいワニ料理が味わえます。

ボリビアというアンデス山脈や民族衣装に身を包んだ三つ編み姿のチョリータさんをイメージされる方も多いでしょう。それとは対照的に、私の派遣先ベニ県リベラルタはブラジル国境に近いア

人々は陽気で穏やか、集まり事には2~3時間の遅刻は当たり前です。車よりバイクが多く、夜の公園を二人乗りで何周もドライブしたり、大音量のラテン音楽に合わせ踊り明かすことがリベラルタの若者流の夜の楽しみ方です。



ウユニ塩湖の青い空と塩の山

活動先の母子病院では毎日多くの赤ちゃんが産まれます。驚くことに10代半ばの若年出産が多く、なおかつ女性は子たくさん。こちらのお産のケアは女性や家族に優しいケアとは言えません。そこで、女性や家族にとって、温かく幸せなお産となるように、「看護は心!お産も心!」という助産師として大切な心を伝えたいです。

9月には視察の旅で訪れた家族と鏡張りのウユニ塩湖に行きました。あの時見た空の青さは忘れられない光景です。任期も残り1年。人との絆を大切に、今ここでしかできない経験をしたいです。

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



平成25年度2次隊

寺越 寛 さん (安曇野市)

●派遣国: ブータン

●職種: 廃棄物処理



右が寺越さん

東日本大震災後に海外から最初に来られた王様として有名な幸せの国ブータンと聞けば、皆様ご存知だと思います。鎖国から解放して約30年しかたらず、まだ入国には厳しい制限がある桃源郷の国に、女房と二人で2年間住んできました。近代化に向かって進んでいますが、建物・道路・上下水道等のインフラ整備が中心であり、廃棄物・公害防止面には技術力不足・予算不足で取り組みが遅れ、問題が出ています。その中の環境衛生上で重

要な最終処分場(ゴミ捨場)の改善に取り組みました。汚い現場に行きたがらない官僚達を連れ出し、現場で問題点を話し合い試行錯誤しながら日々過ごしました。ほとんどの国民が敬虔なチベット仏教徒であるブータンでは、王様や政治家は仏教の教えで国作りを進めており、平和を求め、「足るを知る」思想が行き渡っています。この考え方が幸福の国と言われるゆえんなのでしょうか。私達も毎週、仏間で瞑想に参加させて頂きお釈迦様の考えを教えて頂きました。昨今、経済の格差が出始めたので、



左から2番目が寺越さん

治安面・幸福度の考え方が悪くなりかけていますが仏教の教えが根本にあるので国民は修正しながら幸せの国を保ってくれると思っています。

Information JICA駒ヶ根 インフォメーション

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要
1月14日(木) 15:10～16:00
定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局専攻課 長縄真吾 企画役

▶ JICAボランティア事業の理念と目標

内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動
1月18日(月) 15:10～17:00
定員：10名 講師：小川 登志夫 事務局長（青年海外協力隊事務局）

▶ 世界の宗教理解

内容：世界の宗教についての理解を深める
2月10日(水) 14:10～17:00
定員：10名 講師：齋藤 嘉文氏（元文化学院 講師）

▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する
2月15日(月) 15:10～17:00
定員：10名 講師：廣野 良吉氏（成蹊大学 名誉教授）

▶ 異文化適応概論

内容：文化とは何か、異文化理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていきあたったの心構え
2月20日(土) 13:00～14:50
定員：10名 講師：関谷 雄一氏（東京大学大学院 総合文化研究科 准教授）

▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
2月26日(金) 15:10～17:00
定員：100名 講師：桑山 紀彦氏（地球のステージ事務局）

※講師の都合等で実施日が変更になる場合があります。
ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

平成27年度3次隊(4名)

行ってきます!!

長野県出身新ボランティア

青年海外協力隊



宮下 智織さん (安曇野市) 派遣国：パラグアイ 職種：小学校教育
父から協力隊での経験を聞くうちに、私もいつか応募したいと思うようになりました。今までの経験を生かしながら、パラグアイの先生方と協力して子どもたちの笑顔や「できた!」が溢れる教室づくりを目指します。



下倉 葵さん (長野市) 派遣国：ウガンダ 職種：小学校教育
子どもが好き、海外が好き・・・青年海外協力隊だ!ということでアフリカで小学校の先生をしています。アフリカの子どもの輝く瞳の中で、私が子ども達に与えられる全てのことを与えてきたいと思います。



齋藤 真理子さん (長野市) 派遣国：ホンジュラス 職種：障害児・者支援
障害児・者支援の職種で中米のホンジュラスにいきます。派遣国にいる障害を持っている方と、楽しい時間をたくさん共有したいです。この先どんな出会いが待っているのか今からとても楽しみです。

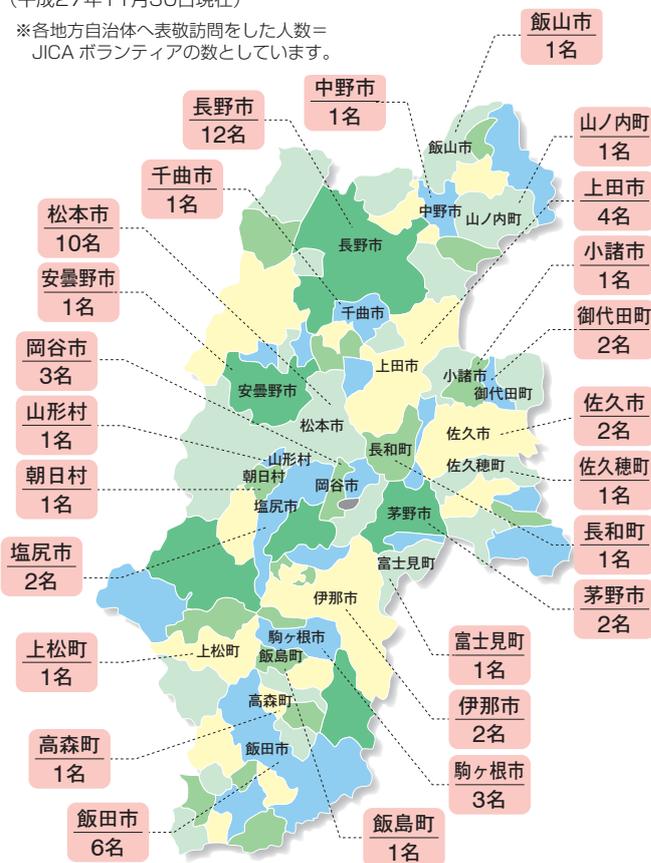


竹内 岳さん (長野市) 派遣国：キルギス 職種：観光
大好きな山が国土の大半を占める山岳国キルギスの観光分野に少しでも貢献できるように挑戦してきます。必ず成長して長野に戻ってきます!

派遣中JICAボランティア

(平成27年11月30日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数＝JICAボランティアの数としています。



新スタッフ



たじまのぶあき
田島 伸明

昨年11月より、駒ヶ根訓練所に勤務しております田島伸明です。2015年の9月末まで西アフリカのセネガルで協力隊員として活動しておりました。帰国したばかりですが、日々新鮮な気持ちで働かせていただいております。主にボランティア候補生の語学訓練のサポートに関わっております。どうぞよろしくお願いいたします。

長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

平成28年11月30日現在

①青年海外協力隊員 派遣中 57名 累計950名	③日系社会青年ボランティア 派遣中 2名 累計 22名
②シニア海外ボランティア 派遣中 8名 累計 76名	④日系社会シニアボランティア 派遣中 0名 累計 4名

発行 **独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所
(JICA 駒ヶ根)**

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。